

北斎ブックワールド ―知られざる板本（はんぽん）の世界―

すみだ北斎美術館（墨田区亀沢） 22.09.21～11.27



「浮世絵」といえば、まず「版画」そして「肉筆画」というイメージであるが、実際には「浮世絵」が活躍した舞台は、それだけではなく、読本の挿絵や絵手本などの「出版物」にも数多くの作品が掲載されている。

本展の企画展は、元々一枚摺りの木版画は、板本に文字や挿絵を彫って摺ったものを本に仕立てた「板本」から、次第に絵のみが独立したとされていて、そういう「板本」の世界にスポットライトを当てたものである。

展覧会の構成は、「板本の基礎知識」「板本に関するトピックス」「所蔵者・読者の痕跡」「板本の優品」の4章で、「板本の基礎知識」では、北斎時代の「板本についての書誌学上の基礎知識が分かり易く解説がされている。

『北斎漫画』は、森羅万象を描いた木版印刷の「紙手本」全十五編で、日本の漫画・アニメーションの元祖的な存在であるとされ世界中で愛されていて、1冊平均60ページの半紙本サイズで、全15編の図版版「3900余」、ありとあらゆるものが描かれているため、「絵の百科事典」とされている。

この収載図のいくつかは、オランダで刊行されたシーボルトの大著『日本』に転載されるなど、画伯が存命中からヨーロッパで紹介されていた。さらに、フランスの銅版画家「ブラックモン」が、日本から送付されてきた陶磁器の梱包材料に『北斎漫画』の1冊が使われていたのを見つけて、画技の高さに驚嘆したというエピソードが広く知られていて、この「ホクサイ・スケッチ」の名で親しまれ、欧米で「浮世絵」が流行する端緒となったとされている。



北斎漫画 《さむたらかすみ》



北斎漫画 《三都廻友会》